

まことと会便り

2015/5

会員の皆様、いかががお過ごしでしょうか。

総会でもご報告しましたが、昨年度は二人の会員がご逝去されました。ここ数年、まこと会の中だけでなく、個人的にも家族・親族を見送る機会が増えてきました。

身近な人を見送ることに、「死」が特別なことではなく今の私の延長線上にあることを実感します。ご法話の中でよく聞くお言葉を自分の感覚として自然に感じ取るようになってきました。そうだったのかと思う一方で、今まで幾度も聴いているお話であっても、自分は全然分かっていなかったのだということに気づかされます。

私たちは皆一度きりの人生です。自分の人生は初めての経験の連続です。だからこそ先を歩かれた先人の人生から学び、準備できることは備えようとしています。しかし、分かったと思っていたことが自分の中で腑に落ちるまでにはやはり時間と経験が必要なのでしょう。たくさんの方の教えをいただきながら、それらを自分のものとしていくあゆみこそが「生きる」ということなのかもしれません。

行事予定



五月 二十六日 光圓寺 春季永代経法要

二十七日 講師 藤 哲哉師

七月 十三日 まこと会 夏法座

十日 十五日 まこと会念仏奉仕

十月 二十二日 光圓寺 報恩講法座

二十三日 秋季永代経法要

講師 吉崎哲真師

十一月 十日 まこと会 親睦旅行

今年は山口方面への親睦旅行を企画中です
みなさまお誘いあわせの上ご参加ください

光圓寺春季永代経法要

五月二十六日(火)二十七日(水)

午後一時半より

講師 藤 哲哉師

広陵東組 善福寺(広島市中区)

今年も春の永代経法座には若いご講師様をお迎えします。中区中島町という当山からも近くのお寺のご住職様です。広島青年僧侶春秋会では光圓寺住職の次、第十八代会長を勤められました。

お若いながらも、相手に寄り添おうとするやさしさが、その物腰の柔らかさからにじみ出るようなご講師様です。

スポーツ、音楽と多趣味で、伝統仏教と現代の若者文化との接点を作ろうと、今までとは違った新しい活動を生み出してこられました。中国新聞でも紹介されたカープ坊主の会」の発起人の一人です。当山へは初めてのお越しとなります。

花まつり

四月八日はお釈迦さまのお誕生日です。

毎年旧広島市内の浄土真宗寺院が集まって（広真会）、本通でのパレードやアステールプラザでの公演会、広島駅南口地下街での灌仏会など、様々な祝賀行事を行っています。昨年からは、アンデルセンをはじめ市内の有名店とコラボして、花まつりにちなんだ甘茶入りのスイーツを作って、エールエール地下街で無料頒布するなど、多くのの人に花まつりを知っていただこうと活動しています。

今年は、広真会で作った「みうらじゅん」さんデザインのお幟が「インドの仏」展が開催されている東京国立博物館の入場ゲートを飾り、築地本願寺にも四百枚納入されるなど全国規模での展開が見られました。四月一日のアステールプラザでの公演会は広島交響楽団員による弦楽四重奏。しかも、第一バイオリンには光圓寺総代の木下さんの若奥様に出演していただきました。



広響弦楽四重奏(左が木下さん)

皆さまご存知のヴィヴァルディの四季「春」に始まり、途中、木下さんのお話を挟みながら、マイフェアレディ、「マッサン」のテーマなど、クラシックに限らず、皆さまになじみのある曲を多く演奏していただき、あつという間の心地よいひと時でした。最後は会場の皆様と一緒に真宗宗歌、恩徳讃を唱和して、「よかったねえ」という声を多く聞くことができました。

また、今年も、まこと会会長の住村富江さんには壇上で灌仏していただきました。来年は、少し大きな行事を行う予定ですので引き続きご期待ください。

住職甲状腺癌になる

ご法事の際には、一言申しているのですが、昨年十二月五日に人間ドックを受けた際、オプシオン検査で甲状腺の検査を行いました。寺町の同世代のご住職が、二年前に手術を受けられたこと、他にも東広島のご住職が東京で手術を受けられたというのを聞き、少し不安になって検査を受けました。特にさしたる自覚症状もなかったのですが、超音波エコーで石化した部位が見られるということで、すぐに専門医の診察を受けました。細胞診の結果、クラスV、悪性腫瘍が疑われるということでした。一月五日に手術を受けました。

手術前には、進行次第では声帯の切除等もあり得る。その結果、嗄声（させいーかすれ声、がらがら声）になることも想定されます、とおどされましたが、手術を受けられた方は普通の声が出ているようなので、過度の心配はありませんでした。とは言うものの、もし声が出なくなるといけないので、一通りのお経は最新PCMレコーダーに録音しました。いざとなったら、口パクでもお勤めができるように。

手術は順調に行われ、入院も術後1週間で済みました。最初は、のどに違和感もあり、元通りの声が出せるのだろうかと思いましたが、



東京国立博物館(両脇に花まつりの幟)

今では傷口を見られない限り、ほぼ前と変わらない状態です。これから十年、三十年と検査を継続していかなくてははいけません、逆に言えば、それだけ予後の良い癌です。ご安心ください。診察は甲状腺では著名な先生でしたが、執刀医の先生は高校の一回り下の後輩。先日はその病院の前身、広島大学第二外科甲状腺科の名誉教授の十三回忌のお勤めをさせていただきました。いろいろなご縁を感じずにはいられません。